

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【常盤北小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>国語の漢字を正しく使うこと算数「加法と減法」の問題場面の数量関係を捉え、式に表わす正答率が低い。 <指導上の課題>児童が自らの学びを振り返る時間を確保するための授業マネジメント力の向上。	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組み【毎日の宿題や授業開始時の実施】授業中に児童が学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【毎時間設定】
思考・判断・表現	<学習上の課題>国語・算数の「思考・判断・表現」の記述式問題の無解答率が高い。自分の考えを論理的に説明することに対して苦手意識がある。 <指導上の課題>子ども主体の学びとなるような授業実践事例の蓄積。	⇒ 他者との協働を通じて自分の考えを比較、検討する場面を多く設定するなどの実践を取り入れていく。また、学習の進め方を児童に選択、決定させる学習を多く取り入れていく。【単元を通して計画的に実施】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	算数の「図形」領域において課題がみられた。円周の長さを直径の長さの何倍になるか見通しをもてていないことが考えられる。 「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」における肯定的な解答の割合が95%であった。今後は、図形についての基礎的・基本的な知識・技能を丁寧に行うことを意識するだけでなく、図形を構成する要素を見だし、活用できるように授業実践していく。	
思考・判断・表現	国語の目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方に課題がみられた。事実と感想、意見と明確に区別せずに、自分の考えをもつことができないことが考えられる。 5W1Hを意識し、文章の理解を深めることやインタビューを行った学習を行う際、一問一答形式で行わず、意図を考えた内容を精査した活動を重視したい。	

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を児童の定着状況に応じて活用し、基礎向上を進めた。例えば、算数では新しい単元に入る前に、関係の深い既習事項の定着を図ることで、基礎的な知識をスパイラルに積み重ねつつある。国語では、単元ははじめに立てた目標と照らし合わせて振り返りをするすることで、自己の課題を明確にし、次時に生かそうとする児童が出てきた。	(追加)学びの振り返りの充実を行う。例えば、スクールダッシュボード「授業アンケート」(形成的授業評価)等を適切に実施し、個人の学びに生かすことができるような授業づくりを行う。【単元を通して計画的に実施】
思考・判断・表現	B	自分の考えをもち、他者と意見を比較検討する活動を、児童の実態を見極めながら継続して行った。例えば、理科では、課題から実験方法をグループ毎に検討し、安全性を教員と確認後、実際に実験することを継続して行った。結果、説得力のある考察をグループごとに出し合い、比較する活動ができ、深い学びにつながっている。	(追加)ICT機器の効果的な活用を行う。例えば、題材や課題に応じて、適切に「オンラインプラス」等のアプリを活用する。他者の考えとの比較検討を必要な時に必要だけ行うことができる学習環境づくりを題材に合わせて計画し、実践する。【単元を通して計画的に実施】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)